

## 縄張り意識のないコメツキガニ

### ■気温が高く、活発な生物

今回の調査は、仙台の最高気温が18.9℃を記録する暖かな日であった。生物の活動も活発で、砂地では多くのコメツキガニが観察された。一つの巣穴から2匹のコメツキガニが出てくる様子も観察した (Fig.1 2)。干潟に個体数が少ないと巣穴の周囲を縄張りとして守るが、個体数が多くなると縄張り意識がなくなるとの報告がある。蒲生干潟には、摂餌した後の砂団子が一面に広がるほど多くのコメツキガニが生息しており、縄張り意識はないようであった。(参考文献 小学館 日本大百科全書9)



(Fig.1 2 一つの巣穴から出てきた2匹のコメツキガニ)

### ■たくさんの生物が潜んでいる

干潟の水辺に近づいても、生物の姿はなかなか見られない。人影に反応し、素早く岩陰などに隠れてしまう。しかし、餌 (今回はカキを使用) を落とすと、即座に集まってくる (Fig.3)。ヌマチチブ (Fig.4) やケフサイソガニ、シマハゼ (アカオビシマハゼかシモフリマハゼかは確認できず) が餌を奪い合う様子が確認できた。



(Fig.4 ナマチチブ)



(Fig.3 餌に集まる生物)